

関川上流産廃処分場計画

「建設には不適切」

上越で学習会 山形大教授ら わき水多く軟弱



山形大学の川辺教授らを招き開かれた、長野県信濃町の廃棄物最終処分場予定地の地形・地質学習会＝5日、上越市の関川水系土地改良区

関川上流部の長野県信濃町赤川地区で建設が予定されている産業廃棄物最終処分場計画で、計画

区で、予定地の「地形・地質学習会」を行った。講師を務めた専門家は、予定地周辺は地滑りを起こしやすい地質だとし、「建設に不適切」と指摘した。

講師は山形大学の川辺孝幸教授(地質学)と、元新大講師の高野武男さん(同)。川辺教授は昨年、同町の依頼で予定地の地質調査を行った。学習会には同協議会の関係者ら160人余りが出席した。川辺教授によると、予定地を含む野尻湖周辺は、地震活動が活発な地域。さらに予定地の丘陵地帯は、わき水が多く出

る軟弱な「野尻ローム層」に覆われている。川辺教授は「地滑りは、活断層が通っている場所で必ずしも起きるわけではなく、活断層から20キロの範囲でも起きる」と説明した。また高野さんは、「地滑りしやすい地質で、人工的な改変をすると崩落する可能性がある」と指摘した。

信濃町の最終処分場 計画めぐり学習会

上越地域農業水産団体連絡協

関川流域に近い長野県信濃町赤川地区で長野市の民間企業が計画する廃棄物最終処分場建設に反対している上越地域農業

水産団体連絡協議会(太田三男会長)が五日、計画地の地質や地形を専門家から学ぶ学習会上越市長面の関川水系土地改良区で開いた。写真。

元新潟大講師の高野武男さんと山形大教授の川辺孝幸教授が約百六十人の前で講演した。高野さんは同建設予定地周辺について「丘陵地であるが著しい崩壊地形の発達地。人が手を加え施設を造るのは危険」と話し

た。信濃町の依頼を受け現地調査した川辺教授は、確認した断層やわき水から地すべりを起こす可能性を指摘。「近くで地震が発生した場合でも、崩壊を起こしやすい地形、地質であり、処分場の建設には適切でない場所」。仮に地震が起こった場合、斜面が関川側に崩れる危険性も示した。

学習会には、地質構造的に不適切と計画反対を表明している信濃町の鈴木重博町長も訪れ、「危険な状態を下流域へおし

つけている。深くおわびします」とあいさつした。また「生命、健康、食の安全など新潟側が負の遺産を背負わなければならぬ。うちの町から、いいんじゃないか」と口が裂けても言えない。

意見交換で、参加者から今後の行動を問われた太田会長は「最

終的には行政対行政の仕事。県知事対県知事で進んでもらいたい。絶対建設阻止」と答えた。



学習会には、地質構造的に不適切と計画反対を表明している信濃町の鈴木重博町長も訪れ、「危険な状態を下流域へおし

北信

信濃町処分場計画 地形や地質学習会

反対の協議会上越で

信濃町野尻地区に高見沢(長野市)が計画する管理型廃棄物最終処分場問題で、建設に反対している上越地域農業水産団体連絡協議会は5日、新潟県上越市で予定地一帯の地形や地質についての学習会を開き、信濃町の松木重博町長も参加した。

同協議会を構成するえちご上越農協など16団体の関係者、市民、上越・妙高の両市

議会議員ら計200人近くが参加。協議会は、予定地近くを流れる関川に水質汚染があれば稲作や漁業への被害は計り知れないとしており、松木町長はあいさつで、「関川下流の上越地方に迷惑をかけるわけにはいかない」と話した。学習会は、信濃町の依頼で調査を行った山形大の川辺孝幸教授(地質学)ら2人を講師に招いた。同教授は予定地周辺の活断層や地震活動などから「地滑りや土砂崩壊が起きやすい地形、地質で、処分場建設には適切でない場所」と説明した。

2009年(平成21年)6月6日

県境処分場計画 地形と地質学習

上越で反対団体

県境近くの長野県信濃町赤川地区で、長野市の業者が廃棄物最終処分場の建設を計画している問題で、下流域への汚染を心配し反対している上越地域農業水産団体連絡協議会(太田三男会長)は5日、上越市内で学習会を開いた。

同会関係者や県議、上越、妙高両市の市議ら約200人が参加。松本重博・信濃町長も出席し、反対の立場から

「心配をおかけして深くおわびします」とあいさつした。山形大の川辺孝幸教授(地質学)は「周辺は活断層が多く発達し、地震活動が活発。この場所地震が起きなくても斜面崩壊を起こす可能性があり、処分場の建設には適切ではない場所だ」と結論づけた。

2009年(平成21年)6月6日

長野の処分場問題 上越市で学習会

長野市の業者が妙高市に隣接する長野県信濃町で計画する産業廃棄物処分場に関する学習会が5日、上越市であり、建設予定地の松本重博・信濃町長は「この処分場ができると、上越地方に危険な状態を押しつけることになり、絶対迷惑をかからない」と、改めて建設反対の意向を表明した。

学習会は、関川水系の汚染を懸念し、計画に反対する上越地域の農水関係者らが主催し、県議や市議、住民ら約160人が参加した。

元新潟大講師の高野武男氏や山形大学の川辺孝幸教授が予定地周辺の地形や地質について解説。両氏は活断層などが集中し、地震活動が活発で地滑りを起こす可能性が高く、「処分場の建設には不適切」と、専門家の見地から指摘した。

貴重な水源守ろう

最終処分場めぐり学習会 新潟

農業用水の水源を汚染する恐れがあるとして、長野県信濃町で計画されている廃棄物最終処分場建設に反対している新潟県の上越地域農業水産団体連絡協議会（16組織で構成）は5日、計画地周辺の環境を知るための学習会を上越市で開いた。2人の専門家が報告し、現地調査の結果などから、計画地は地形や地質などの面で処分場の建設に適していないと指摘した。処分場予定地は、上越

地域の農地に水を供給する関川の上流にある。同

協議会は、計画されている処分場は汚水が河川に流出する可能性が否定できないとして、3月に長野県知事と開発業者に、建設反対の要望書を提出している。

この日の勉強会には農業関係者ら160人が出席。現地調査をした山形大学の川辺孝幸教授は、①予定地周辺は地震活動が活発②断層がありわき水が多く、地滑りを起こす可能性がある③予定地

は周辺地域の地震でも崩壊を起こしやすい地形・地質——と指摘し、「処分場建設は適切でない」と結論付けた。新潟大学元講師の高野武男さんは「地滑り地に人工的な手を加えると、崩壊の危険がある」と述べた。

会場の農家からは「用水を使い農業に従事する者として心配だ」などの声が出された。同協議会事務局の関川水系土地改良区は、行政への働きか

けを続ける考えを説明した。